

2025年度 国際学部英語コミュニケーション学科 小論文問題

問題：以下の文章を読み、内容を自分の言葉で簡潔にまとめたうえで、「日本語と英語の表現の違い」についてあなたの考えを述べなさい。800字以内で解答すること。

「日本人はいろいろと不思議です」とアメリカ人の知人が言います。小学生の男の子が2人、英語を習いに来ているのですが、互いにラストネームで「おい鈴木」とか呼ぶのに違和感があるそうです。「冷たい」というわけです。どちらかのお母さんが付き添って来て、先生に He goes to a swimming school (ウチの子は水泳教室に通ってます)と「いきなりの he」で呼ぶのも冷たく感じるそうです。どうも Taro (太郎)とか My son (私の息子)を期待していたようです。

この指摘は2つの点で意味深です。1つは、英語の he や she は基本的に、文章中で同一表現を繰り返さないための工夫、つまり照応表現であって、生身の個人としての「あの人」や「あの子」を直接指し示す力はないということです。この点で日本語の「彼」「彼女」とは違っています（「彼」「彼女」は、明治時代に日本語に翻訳されて以来、ひとり歩きして、独自の意味を表すようになりました）。2つめは、英語では人をファーストネームで呼ぶことが敬意に通じるということです。英語には日本語のような敬語の体系はありませんが、それなりに敬意を表す方法があるのですね。相手を個人として認めることが敬意に通じる文化です。だから会話の中でよく相手に呼びかけます。

その先生はいろいろと気づく人で、日本人が土産を渡すときによく「近くの店で買ったものですが」と言うのも不思議だそうです。私は、これは「謙遜」の表現ではないかと思っています。そういえば村上春樹さんの『レーダーホーゼン』にこんな場面があります。

彼女は目についた小さなコーヒー・ハウスに入り、そこで昼食がわりにチーズケーキを食べ、コーヒーを飲んだ。

探しあてた立派な店でなく通りすがりのささやかな店であり、正式のランチでなくほんの一時しのぎだというところに、日本人独特の「遠慮」がうかがえます。

[略]

英訳は「チーズケーキを食べようと喫茶店に入った」とだけ言っています。主人公の主観が消え、できごとの輪郭がはっきりしましたが、ちょっと冷たくなりましたね。でも一方で「彼女」が she でなく the mother と訳されているのは温かいと思います。

[略]

出典：宗宮喜代子『やっぱり英語はおもしろい』くろしお出版、2015年、55-57頁

課題：「持続可能な観光」（サステイナブル・ツーリズム）のあり方のひとつとして、地球環境に配慮した観光がある。観光する際に地球環境に配慮するためにはどのような方法、工夫が考えられるか、またそのような方法、工夫を社会全体で実現するためにはどうすればよいと思うか、800字程度で自分の意見を述べなさい。